

平成25年度 大阪市社会教育委員会議 第1回小委員会 議事録

1. 日 時 平成25年4月5日(金) 午後3時から5時
2. 場 所 大阪市役所 屋上会議室
3. 出席者
(委員)
稲岡委員・岩槻委員・岡田委員・黒岩委員・中川委員・西端委員・宮田委員・
山野委員
(教育委員会事務局)
森本生涯学習部長、濱崎生涯学習担当課長、佐々木社会教育施設担当課長、
富田文化財保護担当課長、松村生涯学習担当課長代理
(こども青少年局) 工藤青少年課長
(経済戦略局) 大上文化課長
4. 議事概要
 - (1) 開会
 - (2) 部長あいさつ
 - (3) 出席委員・出席関係職員紹介
 - (4) 議案
 - ・ 社会教育委員会議意見具申について
 - ・ その他
5. 主な意見等について
 - ・「営利企業等による貸室や生涯学習事業にアクセスしがたい市民」の部分で「生涯学習大阪計画」中間見直しの記述などを参考にして、具体的に書き込めばどうか。
 - ・社会的弱者をどのように表現するかということはあるが、成人基礎教育や日本語教育を含めて強調してはどうか。
 - ・「基礎レベルの日本語教室」については一定の説明が必要である。
 - ・「生涯学習を中心とする地域における連携・協働の推進」の図中のカテゴリ分けが恣意的に見える。
 - ・生涯学習・社会教育は全体を結ぶものであるように思うので、課題の一つとしてあると違和感がある。
 - ・「人権」をはじめ、それぞれ全体に共通するものでありながらひとつのテーマでもあるので、完全に包括関係にするのは難しいのではないかと。
 - ・(図の提示のひとつとして) 行政協力団体をカテゴリライズして並べるとわかりやすいのではないかと。

団体をあげる方が地域活動協議会に結びつきやすい。生涯学習推進員の位置づけも明確になるのではないか。

- 具体的に団体を挙げると狭い範囲での理解になって齟齬が生じるのではないか。
- 地域活動協議会になると、部会としての動きになるので、生涯学習がひとつの円に入っている図になっていると理解できる。
- あるいはマズローの欲求階層を参考にした分け方もある。安全・安心、経済、環境、文化、スポーツなどがあって、6段階目にコミュニティを置くなど。
- 生涯学習センターが5館から2館になるのであれば、そのように変わるものとしての書き込みが必要ではないか。
- 生涯学習センターが生涯学習ルームをどのように支援するのかを書いた方がよい。
- 一大阪市では、「生涯学習大阪計画」において（生涯学習とは）「成果が社会に還元されるような学習」及び「市民として協働して課題解決にあたる『市民力』をつけるための学習」という考え方を示した—という記述について、いい記述であるが、例えば生涯学習が、生きるための個人的自己決定能力を身につけるものであるということなどコンセプトをもっと出せればよい。
- 狭い意味ではなく、経済的視点に偏らず自分の能力をもって社会の中で自分の存在感を得る喜びとしての「就労」についても書けるのではないか。
- 教育の場面では「就労」よりも「キャリア形成」という表現をすることが多い。
- 子育てに生涯学習がなぜ必要か結びつく文章が必要である。
- 行政の役割としての「社会人のための学びやすい学習環境の整備」が今後の課題であると思われる。
具体的な方向として巻末に事例を挙げればどうか。
- 市民の人材データベースとして「生涯学習インストラクターバンク」があるが、「見える化」をうたっていくべきである。
- ネットワーク事業での市民のエネルギーが行政を動かしてきているものもある。社会が成熟してきているように思う。